

< N E X C O 中日本金沢支社の冬期交通確保への主な取り組み >

◆雪氷対策作業の人員及び車両体制

N E X C O 中日本金沢支社では、2013 年度の冬期交通確保に向けて、次表に示すように雪氷車両 170 台、雪氷対策作業従事者約 510 名の現場体制で雪氷対策作業に望みます。

		敦賀保全 サービスセンター	福井保全 サービスセンター	金沢保全 サービスセンター	富山保全 サービスセンター		金沢支社 全 体
		北陸道	北陸道	北陸道	北陸道	東海北陸道	
雪氷対策作業の従事者人数		約110人	約100人	約100人	約140人	約60人	約510人
除雪	除雪トラック	18台	17台	18台	24台	11台	88台
	モーターグレーダー	—	—	2台	—	—	2台
凍結防止剤散布	湿塩散布車	2台	3台	4台	7台	3台	19台
	溶液散布車	2台	1台	2台	1台	1台	7台
排雪	ロータリー車	3台	4台	4台	6台	3台	20台
	トラクターショベル	12台	8台	5台	5台	4台	34台
雪氷車両合計		37台	33台	35台	43台	22台	170台

◆定置式溶液散布装置等による登坂不能車の発生回避

敦賀 I C ~ 今庄 I C 間の急な登り坂区間では、定置式の溶液散布装置と散水消雪装置を全体で約 3.3 km 設置しており、降雪時には凍結防止の溶液や地下水を散布して雪道で登坂できない車両の発生を抑制します。



◆監視カメラによる交通障害の早期発見

金沢支社管内の北陸自動車道、東海北陸自動車道では、降雪状況、路面状況、交通障害を把握し早期の対応を図るために、監視カメラを130基設置しています。

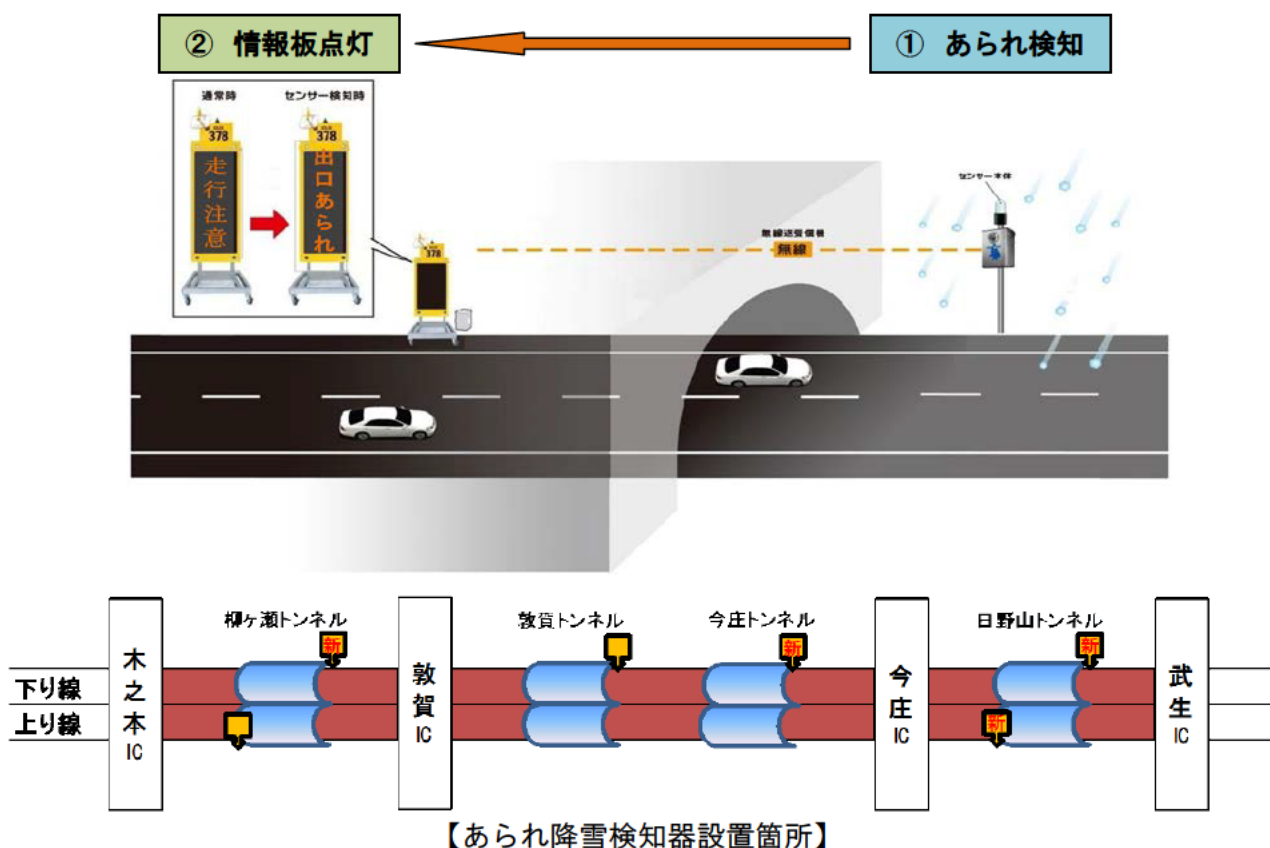
また、登り坂勾配が3%以上の区間の全てで監視可能とし、雪道で登坂できない車両の早期発見に努めています。立ち往生した車両を発見した場合には、現地に状況確認に向かいます。



◆トンネル出口でのあられ降雪時にリアルタイムな情報提供

北陸自動車道のトンネル出口であられが急激に降ると、トンネルを走行してきた車両は、急激な路面の変化により走行に支障が生じます。このようなあられ降雪による路面変化をトンネル走行中の運転手にリアルタイムで情報提供するため、昨冬は試験的にあられ降雪検知機を2箇所設置しました。今冬では、4箇所増設して計6箇所で運用します。

検知器が「あられ」と検知したときには、無線送信でトンネル内の簡易情報板にあられ降雪の情報が点灯して、トンネルを走行する運転手に注意喚起を行います。



◆「ツララ落とし作業」の実施予測で情報提供

トンネル内では地下水のしみ出しにより、厳しい冷え込みの朝には大きなツララが発生し、落下の恐れがあります。金沢支社では樋を設置するなど対策に努めていますが、このツララの叩き落とし作業が例年 70 回前後発生し、その都度お客様に低速走行をお願いしています。

前日の気象予測により翌朝「ツララ落とし作業」の発生が予想される場合、日本道路交通情報センター（JARTIC）と協力して、夕方および翌日朝方の一般ラジオ放送での JARTIC「道路交通情報」の時間に情報提供します。

【前日気象予測で翌朝の作業を判断】



【ツララ落とし作業が必要】



【JARTICの道路交通情報で放送】

